

会社の概況 (2020年9月30日現在)

商号	株式会社朝日工業社 ASAHI KOGYOSHA CO.,LTD.
創業	1925年4月3日
設立	1940年8月8日
資本金	3,857,100千円
代表者	代表取締役社長 高須康有
従業員数	1,008名(連結)、964名(単体)
事業内容	<div>■ 設備工事業</div> <div>■ 機器製造販売事業</div>
事業所	本社および本店（東京都港区） 大阪支社（大阪市淀川区） 支店8ヶ所、営業所28ヶ所 機器事業部（千葉県船橋市） 技術研究所（千葉県習志野市）
建設業許可	国土交通大臣許可（特-1）第2822号 管工事業、電気工事業、 機械器具設置工事業、建築工事業 国土交通大臣許可（般-1）第2822号 消防施設工事業

連結子会社 (2020年9月30日現在)

国内	北海道アサヒ冷熱工事株式会社 旭栄興産株式会社
海外	亞太朝日股份有限公司 ASAHI ENGINEERING (MALAYSIA) SDN. BHD.

株式の状況 (2020年9月30日現在)

発行可能株式総数	27,200千株
発行済株式の総数	6,800千株
株主数	2,473名
大株主	

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
朝日工業社共栄会	584	9.13
朝日工業社西日本共栄会	487	7.61
朝日工業社従業員持株会	339	5.30
株式会社みずほ銀行	317	4.95
農林中央金庫	288	4.49
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	254	3.97
日本生命保険相互会社	250	3.91
高須康有	203	3.18
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	136	2.13
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	93	1.45

株式の所有者別分布状況

所有者	株主数	保有株式数	保有比率
個人・その他	2,247名	3,901千株	57.39%
金融機関	26名	1,697千株	24.95%
その他法人	112名	815千株	11.98%
外国法人等	69名	370千株	5.43%
金融商品取引業者	19名	17千株	0.25%
計	2,473名	6,800千株	100.00%

株主メモ

- 事業年度
4月1日～翌年3月31日
- 定時株主総会
毎年6月
- 基準日
定時株主総会 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
その他必要がある場合は予め公告いたします。
- 株主名簿管理人・特別口座管理機関
東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
- 郵便物送付先
〒168-8507
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
- 電話お問い合わせ先
0120-288-324（フリーダイヤル）
※土・日・祝日を除く9：00～17：00
- 特別口座取扱店
みずほ信託銀行株式会社
本店および全国各支店
みずほ証券株式会社
本店および全国各支店

- 単元株式数
100株
- 上場金融商品取引所
東京証券取引所（第一部）
証券コード1975
- 公告方法
電子公告により行います。
<https://www.asahikogyosha.co.jp>
ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

※証券会社に口座をお持ちの場合、未払配当金の支払および支払明細発行以外のお手続は、お取引の証券会社にお申し出ください。
※特別口座では単元未満株式の買取および買増以外の株式売買はできません。



第92期 中間報告書

2020年4月1日 ▶ 2020年9月30日

株式会社朝日工業社



当第2四半期のポイント

受注高 **34,220** 百万円 (前年比 **22.9%** 減)

売上高 **30,573** 百万円 (前年比 **38.3%** 減)

営業利益 **393** 百万円 (前年比 **84.8%** 減)

親会社株主に帰属する
四半期純利益 **412** 百万円 (前年比 **73.7%** 減)



Top Message

トップメッセージ

厳しい価格競争下でも、「利益重視の徹底」と「経営基盤の強化」に取り組んでまいります。

代表取締役社長 高須 康有

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに、第92期中間報告書をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

期中の市場環境について

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により各国経済が急激に減速する中で、国内でも個人消費の低迷、企業収益の悪化等、極めて厳しい状況となりましたが、緊急事態宣言が解除された後は経済活動にも一部持ち直しの動きも見られました。

当社グループの事業環境は、設備工事業ににつきましては、政府建設投資は底堅く推移しておりますが、民間の投資につきましては、企業収益の悪化による設備投資計画の延期や中止の動きもあり、受注競争の激化や工期の延伸、資機材の高騰などが懸念される厳しい状況が続きました。精密環境制御機器の製造販売事業につきましては、FPD(フラットパネルディスプレイ)製造装置向け製品、半導体製造装置向け製品ともに、生産計画の調整等により受注および生産は減少いたしました。

通期の見通しについて

第3四半期以降の見通しは、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあります。感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを引き上げていく中で、各種政策の効果もあり、持ち直しの動き

が見られるものの、国内外の感染症の動向には注視する必要があります。

こうした事業環境の中で、設備工事業は、引き続き、設備投資計画の延期や中止の影響が懸念され、厳しい価格競争は続くものと思われます。また、機器製造販売事業も引き続き、FPD製造装置向け製品、半導体製造装置向け製品ともに生産計画の延期等の影響が懸念されます。

株主の皆様へのメッセージ

このような中、設備工事業は、引き続き、採算性と施工体制を重視し、将来に向けた戦略的受注活動の展開を図るとともに、施工現場における業務の効率化、生産性の向上と負荷軽減に取り組めます。機器製造販売事業は、生産性を更に向上させるとともに、FPD・半導体の周辺市場や応用分野での顧客の開拓を進めます。また、健康的で働きがいのある職場づくりのため、「働き方改革」を着実に推進してまいります。当連結会計年度は第17次中期経営計画(2020年4月～2023年3月)の初年度に当たり、(1)魅力ある会社・職場づくりの推進、(2)利益重視の徹底、(3)将来に向けた経営基盤の強化の3つを基本方針として定め、当社グループの持続的成長と、より一層の企業価値の向上を目指し、皆様のご期待に応えるため、グループ一丸となって目標の達成に全力を挙げて取り組んでまいります。

株主の皆様には今後とも特段のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



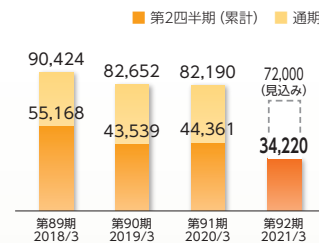
財務情報

財務ハイライト

単位:百万円

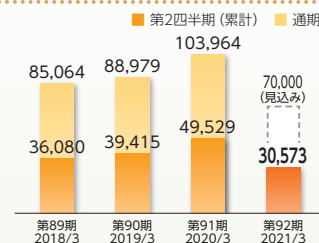
▶ 受注高

34,220百万円



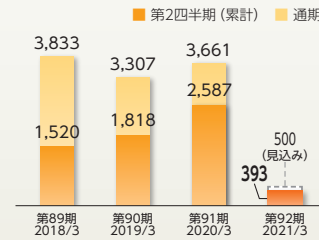
▶ 売上高

30,573百万円



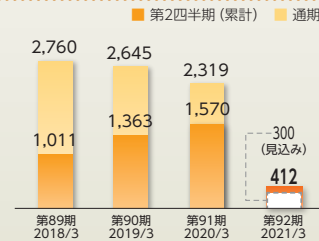
▶ 営業利益

393百万円



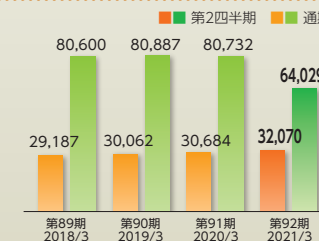
▶ 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益

412百万円



▶ 純資産

32,070百万円



▶ 総資産

64,029百万円

連結財務諸表(要約)

貸借対照表

単位:百万円

	当第2四半期末 2020年9月30日現在	前期末 2020年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	43,379	61,914
固定資産	20,650	18,817
有形固定資産	5,739	5,873
無形固定資産	1,209	1,180
投資その他の資産	13,700	11,764
資産合計	64,029	80,732
(負債の部)		
流動負債	28,959	47,285
固定負債	2,998	2,762
負債合計	31,958	50,048
(純資産の部)		
株主資本	27,695	27,713
資本金	3,857	3,857
資本剰余金	3,742	3,721
利益剰余金	20,812	20,878
自己株式	△ 716	△ 743
その他の包括利益累計額	4,375	2,970
その他有価証券評価差額金	4,789	3,435
為替換算調整勘定	109	106
退職給付に係る調整累計額	△ 523	△ 571
純資産合計	32,070	30,684
負債純資産合計	64,029	80,732

損益計算書

単位:百万円

	当第2四半期累計 2020年4月 1日から 2020年9月30日まで	前年同期 2019年4月 1日から 2019年9月30日まで
売上高	30,573	49,529
売上原価	27,176	43,742
売上総利益	3,396	5,787
販売費及び一般管理費	3,002	3,199
営業利益	393	2,587
営業外収益	158	164
営業外費用	35	58
経常利益	517	2,694
特別利益	145	17
特別損失	18	551
税金等調整前四半期純利益	644	2,160
法人税、住民税及び事業税	47	353
法人税等調整額	183	236
四半期純利益	412	1,570
親会社株主に帰属する四半期純利益	412	1,570

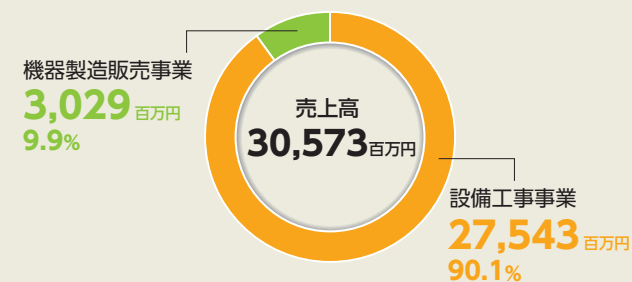
キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

	当第2四半期累計 2020年4月 1日から 2020年9月30日まで	前年同期 2019年4月 1日から 2019年9月30日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	△ 8,605	5,101
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 127	△ 132
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 1,574	△ 1,585
現金及び現金同等物に係る 換算差額	4	△ 13
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	△ 10,302	3,370
現金及び現金同等物の 期首残高	18,997	12,736
現金及び現金同等物の 四半期末残高	8,695	16,107

セグメント情報

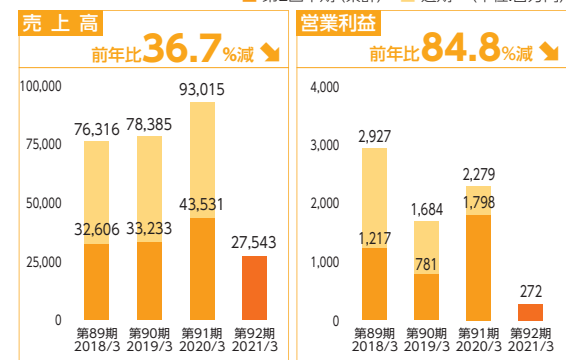
売上高構成比



設備工事業

事業内容：空気調和、給排水衛生、クリーンルーム等の環境整備に関する諸設備の設計、施工および監理

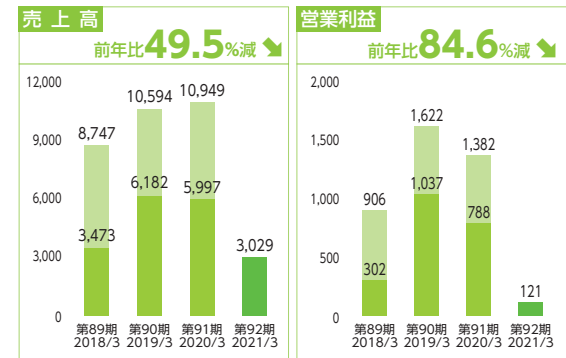
■ 第2四半期(累計) ■ 通期 (単位:百万円)



機器製造販売事業

事業内容：半導体および液晶製造装置向け精密環境制御機器の製造販売

■ 第2四半期(累計) ■ 通期 (単位:百万円)



財務の詳しい内容は、当社ウェブサイトからご確認いただけます。

朝日工業社

検索

感染防止に有効な当社の技術と取組みを紹介いたします。

技術提案の事例

空調技術による感染症対策

当社は、クリーンルームなど高度な制御が必要とされる環境をはじめ、室内の圧力や気流の制御など、目に見えない空気や微細な塵や埃を制御する高い技術があります。これまで病院施設をはじめ、ホール、ホテル、旅館などにおける実績を重ね、さまざまな感染対策に関する技術提案を展開してきました。

本トピックスでは、感染防止に有効な空気調和・換気技術による当社の技術と取組みを紹介します。

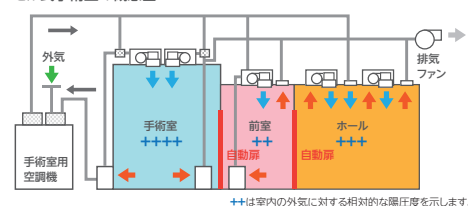
(1)換気量制御

集団感染が確認された一つの要因として挙げられている「換気の悪い密閉空間」を改善するためには、十分な換気量の確保が必要となります。環境に応じて、換気システムの見直しや既存設備の運用変更による改善など、適切な対応方法を提案します。

(2)気流制御（陰圧制御を含む）

室内環境のエアロゾル等を気流や室間差圧により制御し、感染リスクを低減する具体的な気流対策を提案します（流体シミュレーション技術を用いた“見える化”による、対策等）。院内感染防止用として、手術室と廊下・ホール間での空気の交差汚染防止のために前室を設けた手術室（セル式手術室）の施工・性能評価実績があります。

セル式手術室の概念図



++は室内の外気に対する相対的な陽圧度を示します。

(3)ウイルス類の捕捉

空気中に拡散されたウイルスをフィルターで捕捉することは感染防止の有効な対策となります。これまでの実績を通じて、フィルターの選定から循環ダクト等へのフィルター設置など、その環境に応じた最適な対策を提案します。

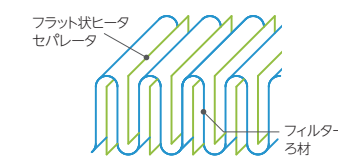
(4)ウイルス類の殺菌

感染リスクを低減する対策としてウイルス類の殺菌は有効な手段です。UV光照射、微酸性電解水燻蒸、高温殺菌などさまざまな方法に取り組んでいます。

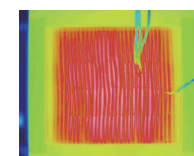
HEPAフィルターろ材の均一高温加熱実験例



a)加熱殺菌フィルター



b)断面概念図



c)加熱時のサーモグラフ

Column 感染の基礎知識

新型コロナウイルス感染症も含めたウイルスの感染経路としては、次の3つが考えられています。

①飛沫感染

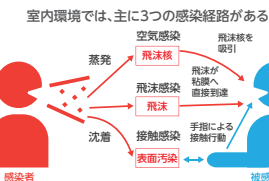
感染者が咳・くしゃみなどをしたときに出る飛沫（口や鼻から出る細かい水滴、直径5μm以上）を吸い込んだり、飛沫が鼻や目などの粘膜に付着したりすることで感染。

②空気（エアロゾル）感染

1)飛沫核感染 飛沫から水分が蒸発することで形成される核（直径0.3μm以上、5μm未満）を吸い込んで感染。
2)塵埃感染 病原体に汚染された土壌や床から舞い上がる埃を吸い込んで感染。

③接触感染

患者と接触、あるいは病原体のついた物に触れた手や食べ物を介して感染。



ホームページをリニューアルしました！

朝日工業社 楽しく考えたい。空想・夢・熱いこと。

ニュースリリース | お問い合わせ | English |

朝日工業社について | 技術と製品 | 研究開発 | CSR | 環境 | 採用情報



NEWS RELEASE

最新情報

ニュースリリース一覧

すべて

お知らせ

技術・製品

CSR

環境

採用

本年7月1日、8年ぶりに当社ホームページをリニューアルしました。デザインを一新するとともに、当社が持つ技術の一端を紹介する「あすみるラボ」、当社のあらましを紹介する「まるごと朝日工業社」、当社の生立ちを紹介する「朝日工業社の歩み(人と空間、95年のヒストリー)」といった3つのスペシャルコンテンツを新たに追加しましたので、ぜひご覧ください。

